

■児童の学力の状況

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から国語科では、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように、書く表し方を工夫することや文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが苦手であることが分かった。
算数科では、数と計算や図形の意味や性質の理解、データの活用について、苦手なことが分かった。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 児童が課題を把握し、解決するための見通しを立てる時間が十分に確保できていない。
- 課題の解決に必要な情報を集めさせ、推論させるため友達同士が交流し考えを高め合う場面が必要である。
- 本時のめあての提示と振り返りをしっかり行い、何をして何ができるようになったかをはっきり掴ませる。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 問題解決型・探究型の学習活動を通し、児童が主体的に学習に取り組めるよう授業改善を進める。児童が知識・技能を習得し、習得した知識を活用して考える力、表現し伝える力として育むために、「対話的な学び」を重視する。友達同士の協働、教師やゲストティーチャーとの対話等から自己の考えを広げ深める。
- 授業の中で学習のめあてを明確に示し、授業の終わりに児童自身に学んだことの振り返りをさせる「板橋区授業スタンダード」を徹底して推進する。
- 少人数学級の利点を生かし、専科教員、非常勤教員、学力向上専門員を活用した個別指導、グループ指導を工夫するとともに、寄宿舎と連携した学習習慣の定着により、児童に基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTを授業の中に設定し、特に子どもが主体的にOUTPUTする場を大事にする。	○各教科等の学びを総合的な学習の時間につなげられるようにする。特にICT機器を活用した追求と、まとめの活動を充実させていく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアの中で情報交換を行いながら、環境教育や健康教育を推進していく。 ○「読み解く力」の観点を踏まえた校内研究を進め、全教員が研究授業を年間1回以上行う。 ○地域の特色を生かしたキャリア教育を推進し、高学年を中心に、農園や総合病院、サッカークラブや水族館等で職業体験を行う。	○一学期の総合的な学習の時間には、海の博物館の学芸員に協力を仰ぎ、近隣の鴨川市内小学校の児童とともに磯の生き物調査に取り組む。 ○2学期の総合的な学習の時間にユニクロ亀田病院店の協力の基、「服のチカラプロジェクト」に取り組み、縦割り班ごとに異学年が協力し、服の回収の計画、啓発活動、地域への依頼、回収、仕分け、梱包、報告とお礼までを高学年の児童が中心となっていく。	○児童からアンケートをとる際にはフォームを活用し、グラフで結果を示し、学習に生かすようにする。 ○既習事項を生かして調べたことをまとめる際には、スライドを活用し、発表できるようにする。 ○話し合いや学習の中での多様な考えを出す際には、ジャムボードを活用し、意見を比較したり、まとめたりする。